



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2550

〒320-0066 宇都宮市駒生1丁目1番6号 コンセーレ (栃木県青年会館)
CONCERE 1-1-6 KOMANYU UTSUNOMIYA CITY TOCHIGI JAPAN 320-0066

(2016~2017) ROTARY CLUB OF UTSUNOMIYA SATSUKI

TEL 028-624-1417 FAX 028-624-1843 URL <http://www.facebook.com/satsukiRC>

宇都宮さつきロータリークラブ 会報

第 110 回 例 会

日 時 : 2017年1月23日 (月)

19:00~20:00

会 場 : コンセーレ中会議室

・開会	滝川 悦子 SAA
・点鐘	石川 均 会長
・ロータリーソング (奉仕の理想) 斉唱	
・ビジター紹介	石川 均 会長
・2016 学年度 2550 地区米山記念奨学生 ヒシグスレン, ボロム エルデム様 (モンゴル)	
・会長挨拶	石川 均 会長

皆様こんばんは。

一昨日 (現地時間 20 日)、いよいよ第 45 代米国大統領に実業家のドナルド・トランプ氏 (70 歳) が就任いたしました。米国の国益を最優先に追い求めるといふ新大統領の就任に、世界中が注目するとともに、過激な発言で企業を狙い撃ちして批判する“口先介入”に日系企業も戦々恐々としています。新大統領の攻 (せめる) 撃ならぬ口 (くち) 撃は今後も続くものと思われます。また、異例の低支持率での政権スタートで、就任式が行われたワシントン市内では、市民団体の抗議集会が行なわれるなど、全てが異例の幕開けとなりました。我々を取りまく環境に悪影響が出ないことと世界平和が壊れるようなことがないことを切に望んでおります。

一方で国際ロータリクラブからは 2017-18 年度イアン H. S. ライズリー会長から来年度の会長テーマと会長賞の提示がありました。ちなみに新年度会長のイアン・ライズリー氏はオーストラリアのビクトリア州、ムアルダックに在住で、自宅は 7 ヘクタール (1 ヘクタール=3,025 坪×7ヘクタール → 21,175 坪) あるそうです。次年度のテーマは「変化をもたらす」であります。「ロータリーとは何ですか?」という問いに奉仕を通じて地域社会に「変化をもたらす」と答えております。

2月~3月からは何かと次年度会長・幹事のお仕事が増えるかと思いますが、国際ロータリー会長テーマ・会長賞の内容を良く確認いただきつつ、当クラブの次年度運営方針に生かしていただければと思います。

さて、本日は秋山さん、増子さんによる会員卓話です。どのようなお話が聞けるか大変楽しみにしております、よろしく願いいたします。

それでは本日も「好意と友情」を深めてまいりましょう。





・幹事報告

齊藤 昇吾 幹事

1. 本日の連絡
 - ・会員卓話(秋山幹雄会員、増子邦彦会員)
2. 青少年奉仕セミナー 1月28日(土) ホテルニューイタヤ
 - ・登録13時 開会13時30分 終了16時30分
 - ・出席予定 石川均会長、武田文夫会長エレクト、大庭千鶴青少年奉仕委員長
3. 第111回例会 1月30日(月) Indigo85
 - ・新年会
4. 第112回例会 2月6日(月) すまいるプラザ
 - ・第4回クラブ協議会(2017~2018年度委員選出)
 - ・2017年2月理事会
5. 第3グループA・B第3回会長・幹事会 2月7日(火) 宇都宮グランドホテル
 - ・受付18時 開会18時30分 懇親会19時30分
 - ・出席予定 石川均会長、齊藤昇吾幹事

6. 2017～2018年度ロータリー財団補助金管理セミナー&研究会 2月11日(土)
 ・宇都宮グランドホテル 登録13時 開会13時30分 終了16時30分
 ・出席予定 17～18年度武田文夫会長、児玉博利幹事、郷昭裕ロータリー財団委員長
7. 2016～2017年度ロータリー米山記念奨学会修了生修了式・歓送会 2月12日(日)
 ・ホテルニューイタヤ 登録9時 開始9時30分 終了13時
 ・出席予定 児玉博利カウンセラー、ヒシグレン・ボロル エルデム
8. 第113回例会 2月13日(月) コンサーレ
 ・平間充子ロータリー財団学友会会員卓話
9. 地区チーム研修セミナー 2月18日(土) 宇都宮グランドホテル
 ・登録13時 開会13時30分 終了16時30分
 ・出席予定 2017～2018年度地区委員
 ① 武田文夫会長 ソーシャルメディア委員
 ② 湯澤敦史会長エレクト 会員組織委員
 ③ 齊藤昇吾副会長 ロータリー財団学友委員
 ④ 児玉博利幹事 ロータリー米山記念奨学会資金推進委員
 ⑤ 内仲祐介青少年奉仕委員長 ローターアクトクラブ
10. 第114回例会 2月20日(月) コンサーレ
 ・第5回クラブ協議会(2017～2018年度委員会活動計画)
11. 第115回例会 2月22日(水) ホテルニューイタヤ
 ・第3グループIM
 ・登録16時30分 IM開会17時 閉会19時 懇親会開会19時10分

12. **振替休会 2月27日(月)**

・委員会報告 各委員会

・武田 文夫氏

次年度の委員会構成で、副委員長はその次の年度の引き継ぐという意味で選んでほしいとおもいます。委員会構成については今週金曜日までに希望を出していただくといいこと、わたしか児玉次期幹事にメールしていただければと思います。

・親睦活動委員会 吉川 泰行委員長

来週1月30日(月)新年会例会のご案内。

・社会奉仕委員会 萩東 雅仁委員長

エコキャップの納品結果の報告。

・スマイル報告 スマイルボックス担当

・石川 均(宇都宮さつきRC) 第44代アメリカ合衆国大統領バラク・フセイン・オバマ氏8年間お疲れ様でした。

・出席報告 出席委員

本日1月21日 会員総数24名 出席19名 出席率79.2% 暫定



こんばんは、本日は、私のことをお話し、卓話に代えさせていただきます。

私は 1953 年（昭和 28 年）2 月 13 日、栃木県上都賀郡栗野町入栗野で生まれました。

来月で 64 歳になります。

宇都宮さつきロータリークラブでは、渡邊さんと夏目さんに次ぐ、年長者です。

因みに、昭和 28 年はNHKがテレビジョン放送を開始した年です。

私の生まれた当時、我が家には、古ぼけたラジオが一台あり、各部屋に電球 1 個あったのみでした。

いま家庭に当たり前のようにある、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン、電話、自家用車などは、一切ありませんでした。

わずか、60 年余りで世の中が一変してしまいました。

私の生まれた栗野町入栗野は、宇都宮から北西に 35 キロほど行ったところにある山村です。実家は、明治時代に曾祖母が婿を取って分家した農家で、私が生まれた当時は、麻の栽培をしていました。

小学校にあがるころからこんにゃくの栽培に切り替わりました。

食べ物は、ほぼ自給自足に近い生活でした。

私は、3 人兄弟の長男で、子供のころは、農家を継いで、栗野町で一生を過ごすのだと思っていました。

というか、ほかの世界を知りませんでした。

毎日、山野を駆けずり回って遊んでいました。

小学校に入学するとき、ひらがなで「あきやまみきお」と書けただけでした。

のんびりした時代でした。

栗野町という町名は、今はありません。

平成の合併により、2006 年（平成 18 年）に鹿沼市に統合されたからです。

私の通った小学校も中学校は、今はありません。

子供の減少で廃校になりました。

いずれ、実家のある地域は、人がいなくなるかもしれません。

宇都宮からわずか 30 キロほどのところで、人が住まない、代わりに、鹿、猿、猪が過剰に繁殖した広大な針葉樹の森があることを知っておいてください。

高校は、農家の長男ということで、鹿沼農商高等学校農業科に入学しました。その高校も、私の卒業した時に商業科と農業科が分離され、農業科は別の場所に移転されたので、今はありません。

大学は今年駅伝 3 連覇した青山学院大学なので、何とか、生き残っています。

青学が駅伝に力をいれたのは、知名度アップのための戦略だそうです。

大成功です。

大学も生き残りをかけて、大変なようです。

就職した会社は足利銀行でした。

栃木県トップの会社なので、安泰と思いきや知らないうちに大変なことになっており、危うく、消えてなくなるところでした。

なんとか生き残ることができ、今日に至っております。

しかし、まだまだ、予断は許されないでしょう。

農業高校に行った私が、なぜ、大学に行き、足利銀行に入行したのか。

私は平凡な人間ですが、私の人生は、なかなか、ドラマチックです。

生まれた場所と生まれた時代がそうさせているのだと思います。



1975年（昭和50年）4月、足利銀行に入行しました。

さまざまな経験をさせてもらいました。

その中でも、1987年（昭和63年）からの3年間、事務管理部の部長代理時代に、第三次オンラインシステムの導入プロジェクトに携わりました。

3年間、昼夜、休日もなく、働きました。

システム移行は無事成功しました。

この時期は、バブル経済時代と重なっていますので、私はバブルを知りません。

私の知らないうちに、世の中、そして、足利銀行は、めちゃくちゃになっていました。

システム移行が成功し、1991年（平成3年）の4月に、営業店に出てからは、大変でした。

営業店はバブリーな営業と無理なシステム移行でガタガタでした。

なかでも、転勤になった店は、ワースト1の店でした。

2年間で事務体制の立て直しをしました。

2年後の1993年（平成5年）の4月から融資課長になり、ここから、不良債権との戦いが始まりました。

2003年（平成15年）、運命の日（11月29日）時は融資管理部長でした。

3か月以上にわたり、金融庁検査で打ちのめされていました。

前日は、虫の知らせか、私一人、夜、残っていました。

10時ごろ、本部部長に召集がかけられ、ある役員より、一時国有化の申請をする旨、通知されました。

この時点で、私の足利銀行での人生も終わったと思いました。

しかし、運命のいたずらで、翌年の2004年（平成16年）6月に取締役役に指名されました。

そして、一時国有化の間の4年間、取締役役を務めました。

足利銀行は一時国有化の時は、金融庁の指示で、「業務監査委員会」を設置し、すべての業務執行を事前にチェックする体制がとられていました。

委員長は地元を代表して選ばれた社外取締役（当時、宇都宮商工会議所会頭であった）築さんです。

委員は社内取締役1名（これが私です）、社外取締役1名（後に最高裁判所判事になった須藤弁護士です）、公認会計士1名（この方も、業界ではよく知られた田知本公認会計士です）の3名です。

オブザーバーとして社外取締役1名（元大阪高等検察庁検事長の河内弁護士です）と預金保険機構から数名が会議に出席しました。

会議は、原則、毎月1回、開催されました。

再生案件、新規案件の事前チェックを行いました。

委員、オブザーバーともそうそうたるメンバーで、こんなことがなければ、絶対におめにかかれない人達でした。

足利銀行が一時国有化になったのは、足利銀行が破たん（つまり、銀行の機能を停止）したのでは、栃木県経済が機能しなくなると考えられたからです。

したがって、足利銀行には、

- ①地方経済を支える地方銀行の機能を維持すること
- ②民間企業として安定的な利益の出る態勢を作り上げること
- ③そのために「不良債権」を正常値にすること

しかも、地元経済にマイナスの影響をできるだけ最小限に抑えながら処理をすることが、ミッションとして与えられました。

足銀の不良債権というのは、地元企業への貸付金で、地元企業にとっては、借入金です。



企業のバランスシートの資産にある「バブル資産」、負債にある「過剰借入金」が銀行の「不良債権」となるわけです。

地元経済にマイナスの影響をできるだけ最小限にする処理をするということは、過剰債務で苦しむ地元企業への融資を無理やり回収したり、破たんさせたりしないで、できる限り、再生させながら、不良債権をなくすということです。

しかし、いざ過剰債務をなくすといっても、単に、債務免除することは、モラルハザードになりますので、許されません。

オーナー、経営者にはそれなりの責任を取ってもらわなければなりません。

しかし、中小企業というものはオーナーである社長で成り立っているものです。

多くの企業でオーナー、社長が退いたら、会社そのものが成り立たなくなる可能性があります。

オーナーもそう簡単に会社を手放しません。

そこを何とか折り合いをつけなければなりませんでした。

これが、一番大変でした。

また、再生には法律的な問題、会計的な問題、税務的な問題などを様々な問題を解決していかなければならず、これも大変でした。

担当部門は、業務監査委員会の先生方の厳しい指摘を受けながら、なんとか、企業再生を図るべく、担当企業との厳しい交渉を繰り返していました。

当時の担当部門の行員は本当によくやってくれました。

結果的に、多くの企業を再生することができました。

相手側の立場は、昨年、和知社長がお話になったとおりです。

おそらく、言葉にできない苦しい日々が続いたことと思います。

4年間で、与えられたミッションはほぼ達成し、野村証券の資本投入により、民営化となりました。

池田元頭取は、単身で乗り込んできて、4年間で、銀行の再生と地元企業の再生を成し遂げたのですから、すごい人だと思います。

私たち役員は、それぞれの役割において、それを補佐しました。

民営化を期に池田頭取は去り、その当時、役員であった上位の3名は早々に退任させられました。その中の1名が私です。

そして、藤澤頭取の新体制となり、今日の松下頭取の体制とつながっています。

足利銀行が破綻して、一時国有化になってから13年、国有化を脱してから、8年がたちます。

当時のことを知る行員もだいぶ減ってきました。

厳しい再生条件を受け入れ、見事、再生され、地元の有力企業として活躍されている企業をたくさんあります。

感慨深いものがあります。

最後に、私の人生も終盤に入ってきましたが、まだまだ、社会のお役に立ちたいと思っています。

何か、ありましたら、どうぞよろしくお願いします。

・卓話

増子 邦彦様

・ ACT について

学生時代に自身が組んでいたバンドの名前。

そこからとった ACT(行動する)という意味。

様々な業態、企業の行動をつなぎ手助けを出来る企業になるという理念からアクトリンクスという社名に。



・事業内容

ホームページ デザイン・構築 業界歴約 10 年

パソコン修理 サポート全般 業界歴約 10 年

講師業 現在職業訓練校講師 約 2 年

・経歴

幼少期母子家庭で育ち、テレビゲームが日常。小学生時代にパソコンクラブに入りそこでゲームを作る。

中学生 部活 高校生 バンドと様々な経験を経て派遣社員で 7 年間工場勤務をする。その際に人と接することをとても嫌う日常を過ごしていたが、その後にパソコンの修理業者に就職。そこで接客の喜びを知り、業界への興味が強くなる。

・現在の業態について

IT 業を生業としている理由は、どんな業種の企業様のちからにもなれ、ビジネスパートナーになることができるから。

また、技術的に終わりがなく、想像を形にしていくことができる未来ある業界だから。

・点鐘

石川 均 会長

・閉会

滝川 悦子 SAA

